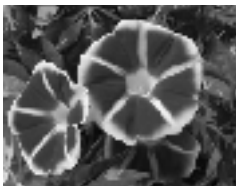
カトリック山形教会報
かすみ
7
2012.7.22



カトリック山形教会
〒990-0039　山形市香澄町2丁目11-15　TEL.023-622-3574　FAX.622-3590
ホームページ　http://www.catholic-yamagata.com/

2012年6月24日　洗礼者聖ヨハネの日の説教

『主イエスを照らす、本当の光になろう』

カトリック山形教会主任司祭　本間研二

教会にいますと、信者さんと会う機会もありますが、そうでない方と会う機会もたくさんあります。以前、ある男の方が来ました。名刺をいただいたので読みましたら、肩書きがいっぱい書いてありました。裏返すと、裏にもいっぱい書いてありました。それを見せながらその方が、「忙しい」とおっしゃるのです。「毎日忙しくて仕方がない」と。自分は社会の中で価値があるのだということを、アピールしたいような、そんな感じでした。違う日にある女性が来ました。お二人とも共通点は、「忙しい」なんです。それからどうも、自分は社会の中で価値があるのだ、ということをアピールするのです。お二人がアピールしたいことは、「私は輝いているでしょう」と、そう言いたいのかなと思いました。でも、輝いていないのです。「自分は輝いている」とアピールするのですが、どうもわたしには、輝いているように見えないのです。「忙しい」と言えば言う程、「自分は社会の中で価値があるのだ」と言えば言う程、うつろに聞こえてきたのです。

イエス様が洗礼者聖ヨハネから洗礼を受けられる場面
（ヨハネ館入り口にあるステンドグラス）

輝くとは、どういうことでしょうか。私たちは、どうすれは輝くことができるのでしょうか。肩書きがいっぱいあれば、私たちは輝けますか。おしゃれをすれば、輝けますか。何か物をいっぱい持っていれば、輝けますか。どうもそうではないような気がしてならないのです。私にもわからないのです。輝いているのでしょうか。皆さんは輝いているでしょうか。

以前私がいた教会の事ですけども、奥さんが信者さんで、ご主人が信者さんではないご夫婦の方たちがいました。私は彼らのことを昔から知っていました。ある時奥さんが来まして、「毎週教会に来られなくなりました」と言いました。「どうかしましたか」と聞きましたら、どうも、ご主人がいい顔をしないらしいのです。もうちょっと詳しく聞きましたら、「時間の無駄だ」と言われるらしいのです。「日曜は俺の休みなのだから、お前は家にいて、俺の世話をすればいいんだ」…そう言われたらしいのです。そのことで相談に来たのでした。私は「無理しないで」と言いました。「来れる時に来てくださいね」と言いました。「どうかご主人のために祈ってくださいね」そう言って、帰っていただきました。それから1年ぐらい経った時でしょうか。奥さんから聞いたのですけども、ご主人が病気で入院なさったのです。深刻な病気だと聞きました。しばらくして、奥様から電話が来まして、自分の主人が私に会いたがっている、病院に来てくれないか、という電話でした。私は行きました。ご主人は横たわっていました。私は、本当にびっくりしました。私が知っている彼は、体が大きく、とても立派な体格でした。ベッドに横たわった彼は、細く、弱々しくなっていました。私が彼のもとに行きましたら、突然彼が「洗礼を受けたい」と言いました。奥様から病状を聞いていましたので、緊急洗礼ということで、急いで教会に帰って準備し、洗礼を授けました。その後、奥さんに部屋を出ていただきまして、二人で話をしました。私はびっくりしていたので、「なぜですか」とお聞きしました。教会に関しては、良い印象もっていなかった方だったのです。すると、「心の中にあった石が解けた」と言うのです。「え、どういうことですか」と聞いたら、「自分は妻に対して決していい夫ではなかった。家では全て命令していた。妻の言うことにも、聞く耳を持たなかった。教会に行くことも止めてい

（2面につづく）

た。いい夫ではなかった。自分が病に倒れたとき、本当に一生懸命に世話をしてくれた。心をこめて今も、世話をしてくれている。自分の心が一番変わったのは、自分が寝ていたときのことだ。ふと目を覚ましたら、妻が手を合わせて祈っている。何か、十字架の付いた数珠のようなものを持って、祈っている。そんな姿が見えた。自分のために祈ってる妻の姿。自分を大事に思ってくれる妻の心。それに触れた時、自分の中にあった石の心が、砕けてしまったんだ。」…そう、彼は言いました。その後で、本当に不思議な光景が現れました。その後何回か、私は御聖体を持って病室に行きました。彼の姿が輝いてきたのです。いっぱい物を持って、いっぱい働いて、やる事がいっぱいあった彼。そんな彼と出会った時に、私は全然、輝いているとは感じませんでした。でも、健康を奪われ、仕事を奪われて、ベッドに横たわり、細くなっていく彼の姿が輝いてきたのです。なんでだろうと思いました。もう余命いくばくもない彼が、何で輝いてきたんだろうと思いました。愛されてることを確信したのです。本当に、自分は妻から愛されている。大事にされている。その事を彼は確信できたのです。そしてもしかしたら、奥さんの姿を通し、自分は神に愛されている、そのことを知ったのではないのかなと思うのです。だから彼の姿が輝き始めたんだろうと私は思います。

輝いている人とは、忙しい人ではないのです。着飾っておしゃれをしている人ではないのです。欲しいものを何でも手に入れた人でもないのです。輝ける人。それは、愛された人です。今日私たちは、洗礼者ヨハネを祝っています。ヨハネは荒れ野で生活した方。野蜜を食べ、ラクダの毛皮を着た方。厳しい方という印象が、私たちにあります。でも、ヨハネの真髄は、神から愛されているということを、心の底から確信していたことではないでしょうか。だからこそ、彼は輝く灯火と呼ばれているのです。神様から愛されてることを本当に知った人は、灯火のように輝くことができる。ただ、どんな灯火でしょうか。ネオンのような灯火でしょうか。私を見て、こんなにすごい私を見て、そんな灯火もあります。でも、ヨハネの灯火は、そんな灯火ではありません。蝋燭の炎の様に、懐中電灯の光の様に、イエス様を照らすための、灯火でした。

イエス様は言っています。「あなたがたは世の光となりなさい。光となって、人々を照らしなさい。」…イエスははっきり言っています。灯火になるためには、神の心を見なければいけません。イエスは今日も言っています。「あなたが好きだ。あなたの事がとても大切だ。大事だ。」…でも、私たちはしばしば、心を閉じるのです。イエスの声を聞こうとしないです。なぜでしょう。忙しいから。やることがあるから。もっと大事なことがあるから。そうして私たちは、イエスの言葉に耳を閉ざしているのですね。心の耳を澄ませましょう。きっと今日も聞こえているはずです。「あなたの事が好きだ。あなたの事が、とてもとても大事だ。」それを聞いたとき、私たちは輝くことできます。その輝きを持って私たちは、人々を照らし、主イエスを指し示すことのできる、真の光となっていくのではないでしょうか。私たち一人一人が光となってイエス様を照らし、今日またこの教会から一人一人が、社会の中に派遣されていきますように。

みこころ祭りに参加して

みこころの園 後援会長
クリストファー　大宮　正美

第26回を数えた「みこころ祭り」おめでとうございます。今年は例年通り、学生ボランティアを受け入れ、にぎやかな祭りのはこびとなりました。また、昨年は東日本大震災のため自粛ムードで行いましたが、今年はチャンス券販売も行われ、ご協賛いただきました事業者様ありがとうございます。例年と同じ祭りが行われました。

毎回思うことは、職員の方々が、企画からはじまり、中庭の中央舞台、会場内のテント張り、模擬店の設営等々…用意万端準備され、本当にご苦労様そしてお疲れ様です。

その準備されたところへ、ボランティアの方々が振り分けられ、午前9時15分に当日スケジュールが発表され、野口園長のあいさつで始まりました。祭りのテーマは『輝き～今を生きる～』です。入所されている方々への楽しい一日をつくるため、そしてご家族、お友達、地域の皆様と楽しい祭りをつくりあげ、参加したすべての皆様と生きている喜びを分かち合うためと話されました。いよいよコーナーごとに分かれ、スタートを切りました。

今年も晴天に恵まれ、神に感謝しています。焼きそば、たこ焼き、どんどん焼きの方々は、ガスの炎と日差しの強さで、長時間大変な思いをなされた事と思います。また、駐車場係の方々は木陰もなく、直射日光の中、大変ご苦労さまでした。

今年、はじめてどんどん焼きが加わりました。たこ焼きとならび、とてもよく売れていました。担当職員のリードで手際よく焼いてくれました。出来上がりはプロなみの出来ばえで、すぐ売れてしまいました。用意された粉もなくなり、そうこうしている内、舞台でのアトラクションが終了、チャンス券抽選が行われ、楽しい一日が過ぎて行きました。

6月3日（日）、好天に恵まれ、みこころ祭りが開催された。
山形教会からも多くのボランティアが参加し、職員や学生たちといっしょに裏方として汗を流した。

みこころの園祭り

ヨセフ　渡邉　周蔵

「渡邉さん、当日の集合時間8時半になりましたよ。」
大宮さんからの連絡のお電話でした。いよいよ久しぶりのボランティアの始まりです。

前夜に、娘のエプロン、バンダナを借りて、準備オーケイ。この度は「どんどん焼き」の係を申し込んでいたので、やったことのないことの不安と無責任な大きな楽しみがありました。娘の桃子も、行くことになり、当日は、「野菜:花屋」担当で頑張りました。

お祭りは、天気に恵まれていいお祭り日和に。どんどん焼きは、いろんな方々とお会いできとても良い日になりました。後半は、「たこ焼き」の係に引き抜かれ、失敗作もありましたが、すぐに上達し、これも、注文に追い付かないほど売れました。飯島さんはじめ、皆さんにお世話になりながら、楽しい一日を過ごしました。神に感謝。

“感謝の心をもって”

ヨセフ　渡邉　周蔵
マリア　すみ
小さき花のテレジア　桃子

先日、3月26日、父故ヨアキム渡邉新二郎の葬儀には、教会の方々の心のこもったご協力をいただきまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

父は、大正3年生まれ、98歳で、大正、昭和、平成と生き抜き天寿を全うして帰天いたしました。

私達は、2010年ごろに教会とのご縁があり、また本間神父さまの心強い励ましによって教会に通うようになりました。翌年2011年、父の入院、妻の入院などといろいろな試練がありましたが、12月25日、私、妻、娘の三人が洗礼を受けさせていただきました。感謝。

私達は、クリスチャンになってまだ日も浅く、未熟者ですが、皆さま方にいろいろ教えていただき、また、信心を深めてまいりたいと思っております。カトリック教会の一員となり、イエス様が、導かれる光の中を歩むことが出来ますように…。

また、先日の4月1日のミサの日には、娘・桃子の誕生日に当たり、思いがけず皆さまに祝福していただき、本人もとても嬉しかった様です。ありがとうございました。

いつか「真珠」にかえて

マルグリット・マリー・アラコク　村川　智実

カトリック山形教会の皆様、今年の復活祭で洗礼を受け、共同体の一員になれたことを心から感謝いたします。

私の洗礼名は、敬愛するシスター渡辺和子さんと同じ名前をいただきました（渡辺さんの最初の洗礼名です）。洗礼名を考えている際、渡辺さんがその著書の中で「マルグリット」という名前が、ラテン語で「真珠」を意味するのだと書かれていました。渡辺さんは真珠を生み出すアコヤガイが、海の中のいろんな物を体に取り入れながら、最終的には宝石に変えていく真珠が大好きであること、また真珠を生み出すまでのアコヤガイと人生を重ね合わせ、ご自分自身、様々な出来事や心の中の葛藤を「真珠」に変えていけるような生き方をしたいと、語られていました。私自身もそうした生き方でありたいと思い、この名前を洗礼名にさせて頂きました。

洗礼を受けてからミサにあずかるたびに「聖体」をいただくようになりました。この大きな恵みをいただくことで、本当なら私の心のみにくさやおごりが、主イエスと共にあって「真珠」に変わらなければならないのに。私は同じ場所を行きつ、戻りつしていることに気が付きます。こんなに多くの恵みをいただいているのに、私には主イエスに捧げられるものが何もないことに…。

洗礼を受ける時、今までの主イエスとの出会いを思い返していました。最初の出会いは父の転勤で仙台に移った際、編入した幼稚園です。「あぁ、あれが出会いだった…」と考えながらふと、心に浮かんだことがあります。私は引っ越しをする前に通っていた児童館でいじめに遭っていました。児童館に行くのが嫌で、毎日泣いて、母を困らせていたことを思い出したのです。

…主イエスは、あのとき私を見つけてくれたのではないかと…思いました。そして、数年前にも悲しみの中にあった私を見つけて下さいました。

迷い出た子羊の私を見つけて下さった主イエスに感謝しながら、私の心のみにくさ、弱さや様々な出来事を「真珠」に変えていけるよう、歩んでいきたいと思っています。神父様をはじめ、教会の皆様どうかよろしくお願いします。

聖体奉仕者としての責任

ヨハネ　小林　雅人

6月29日付けで、シスター3人と代表者委員の5人が、新たに聖体奉仕者の任命を菊地司教から受けました。

山形教会にはすでに数名の聖体奉仕者が任命され、その役目を努めていますが、さらに、新たな聖体奉仕者を加えなければならないほどの状況になっていることを考えると、現在、本間神父が一人で山形、新庄両教会を司牧しなければならない司祭職の活動の厳しさを、我々信徒も重く受け止めなければならないと思います。

菊地司教は、ご自身のホームページの中で聖体奉仕者についてこのように記しています。

（前略）聖体奉仕者には、司祭が複数の小教区を担当しているなどの事情で主日にミサを捧げることが出来ない小教区において、集会祭儀を司る役目が与えられている場合もあることだと思います。（中略）一番大切なことは、共同体が主の日に共にひとつに集い、共に祝い、信仰に生きることです。ともすれば目に見える規則的な事柄の細かな点にばかり注意が向けられて、そのことで対立を生んでしまうこともあるやに聞きます。重要なことは、十分な敬虔さをもって、丁寧に、集まったお一人お一人の心に向けて、ふさわしく儀式を司ることであり、御聖体を授ける機会があるときには、それにふさわしい礼を尽くすことによって、共同体のお一人お一人の信仰を深める手助けをするという意識であろうと思います。聖体奉仕者は単なる式典の「司会者」でもなければ、御聖体の「配布係」でもありません。「司祭不在の時の主日の集会祭儀指針」には次のように記されています。

「指名を受けた信徒は、ゆだねられた任務が名誉であるよりは、むしろ、使命であること、何よりもまず、主任司祭の権威のもとで行う、兄弟への奉仕であることを自覚しなければならない」（後略）

新たに任命された聖体奉仕者もこれまでの聖体奉仕者同様、司教から与えられたこの任をよく理解し、司祭の補佐、そして司祭が不在の主日には主イエスの御体である御聖体を届けるにふさわしい信徒でありたいと思います。